

研究・調査報告書

報告書番号	担当
244	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Unique facial features distinguish fetal alcohol syndrome patients and controls in diverse ethnic populations. 多様な民族において、独特な顔の特徴により胎児性アルコールスペクトラム障害とコントロール群の識別ができる	
執筆者 Moore ES, Ward RE, Wetherill LF, Rogers JL, Autti-Rämö I, Fagerlund A, Jacobson SW, Robinson LK, Hoyme HE, Mattson SN, Foroud T; CIFASD.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Clin Exp Res. 2007 Oct;31(10):1707-13.	
キーワード 胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD)、顔の特徴、人体測定学、目寸法、民族の違い	
要 旨 背景： 胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD) の有効な管理ができるかどうかは、時宜を得た信頼できる診断ができるかに依存している。しかし子供達が成長すると人種や民族によって顔の特徴が縮小 (変化) するため、診断は非常に困難である。	
方法： 対象は 4 箇所 (ケープタウン、南アフリカ;ヘルシンキ、フィンランド;バッファロー、ニューヨーク;そして、サンディエゴ、カリフォルニア)、から抽出された患者 276 名を異型症、胎児期アルコール症候群のどちらかに分類された群 (FAS 群;43%) とコントロール群 (57%) に分類した。広い年齢層と、異なった民族的集団研究で FAS 患者群とコントロール群を区別することを可能とするために顔の特徴を確認するためにコンピュータ処理された人体測定が行われた。	
結果： 患者は、彼らの家系に基づき以下の 4 つの集団に分類された (混血、フィンランドの白人、アフリカ系アメリカ人または北アメリカ白人)。4 つの各々の研究での分析により、2 グループ (FAS 群、コントロール群) 間において明らかな判別になる変数の独特な特徴を特定することができた。各研究グループでは、少なくとも、目に関連した測定値 (短い眼瞼裂、外眼角幅の減少もしくは内眼角幅の減少) が、最終的な分類法モデルに含まれた。	
結論： 我々はそれぞれの調査集団で、FAS 群とコントロール群とにおいて胎児性アルコールスペクトラム障害を識別するのに、眼窩の測定による識別が可能であることが分った。また各々の集団においても FAS 群とコントロール群を識別するのに特有の (とはいえしばしば重複はみられるのであるが) 項目があり、FAS の発現には重要な民族差がみられることが示唆された。今回幅広い年齢分布によって更に相違が大きくなった事も考えられる。	